

8/29 KUNIGO

Takuto KUNIGO
29/ 08 / 2013
v 0.05

SLテストの状況

- 読み出しが出来なかった理由はL1Aだった！！
- TTC VIのこここのダイヤル(16進)で1メモリ2nsずつ入ってきたクロックを調整出来る。
- 現在は設定して読み出しが出来るようになっている

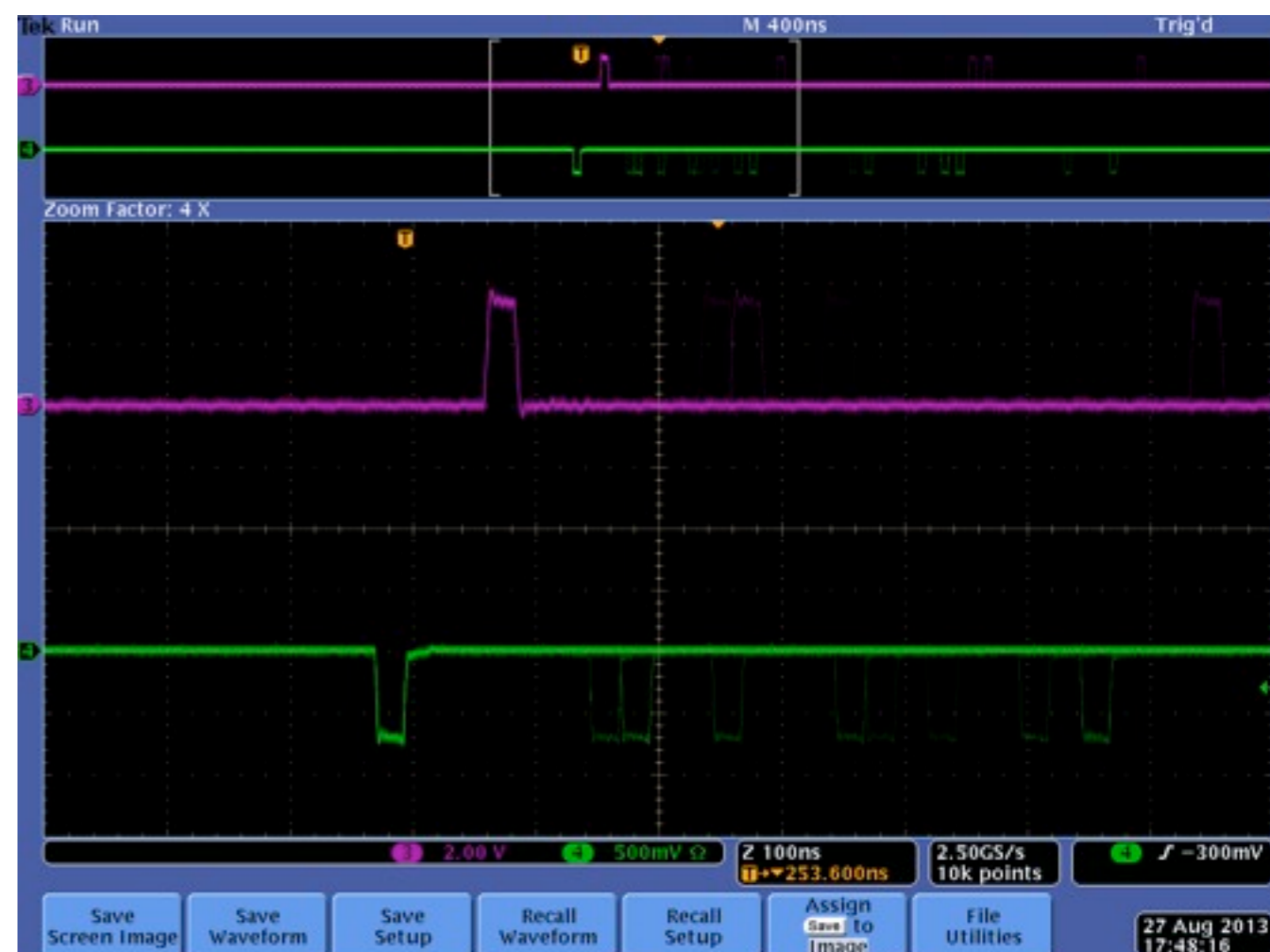
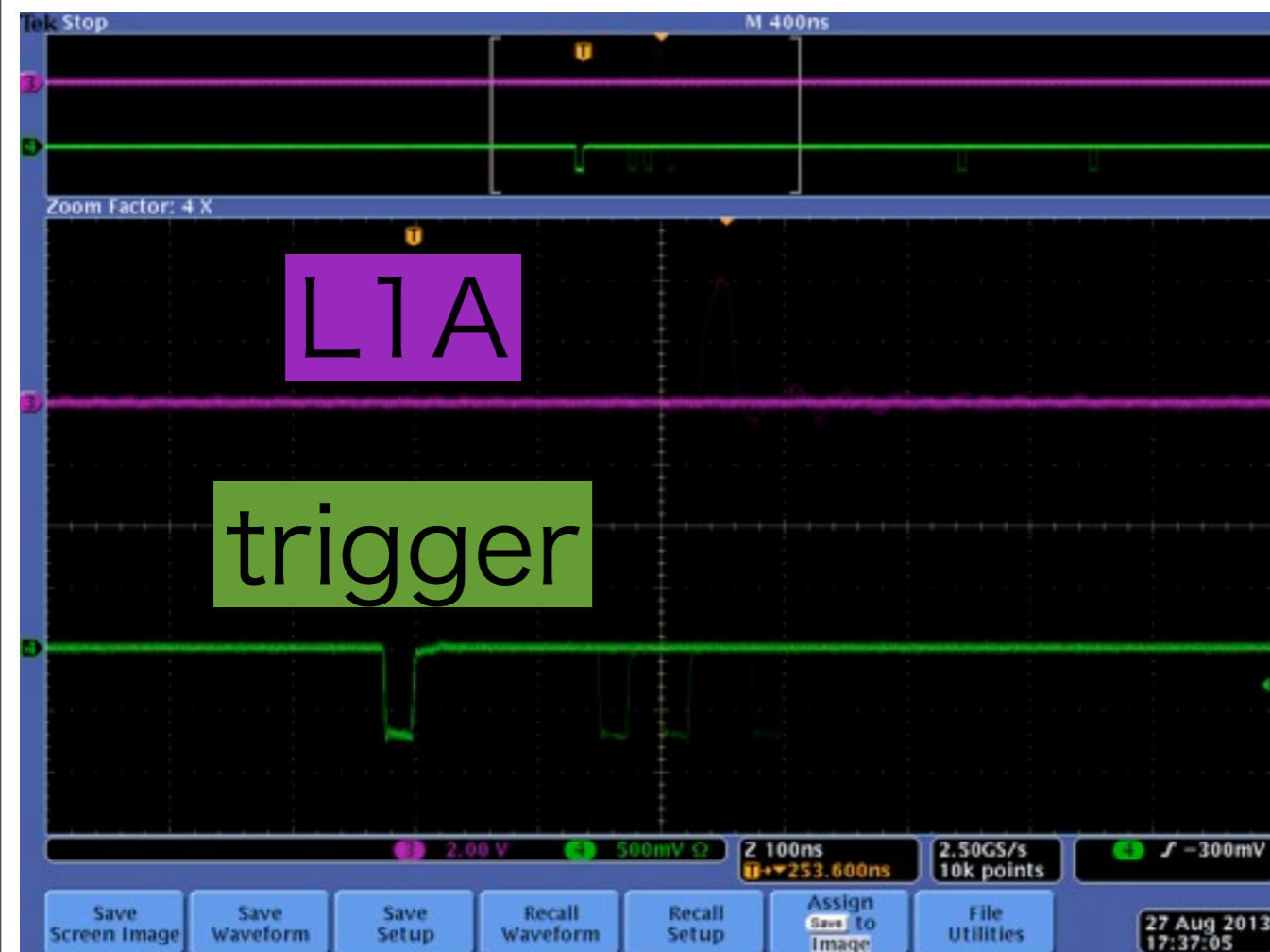


TTC VI Delay

Delayの値を換えた時のL1A信号をSPPにプローブを当てて波形を見た

見えない

見える



この設定方法を理解して、記録に残しておきたい

現在のSL debugの進行

読み出しは出来るようになったのでdebugを進行中

- 今までtriggerが出なかったのは、簡単な文法missだった。(蔵重さんからの指摘)
- 来見田firmwareでtriggerが出ることを確認。(L1AはRandom設定)現在マイナーなbugをdebug中。(Delayの調整など)
- L1AをSLからのNIM outを受けて出すように設定して、Burst Stopperの検証を行いたい。

PT6 & testbench in KYOTO

- 今回PT5の挙動を疑って、途中までPT6を使っていた。ただ、PT6のdata dumpはprogramがないため、そのcodeを描いている途中だった。
- 結局、PT5の問題ではなかったため今回のテストはPT5で行うが、これを完成させて京都にあるtestbenchを整備したい。

TDR rate check: S2

バグを修正して走らせた結果は、
石野さん・田代さん・救仁郷
3人で走らせて一致することを確認。

OK!!

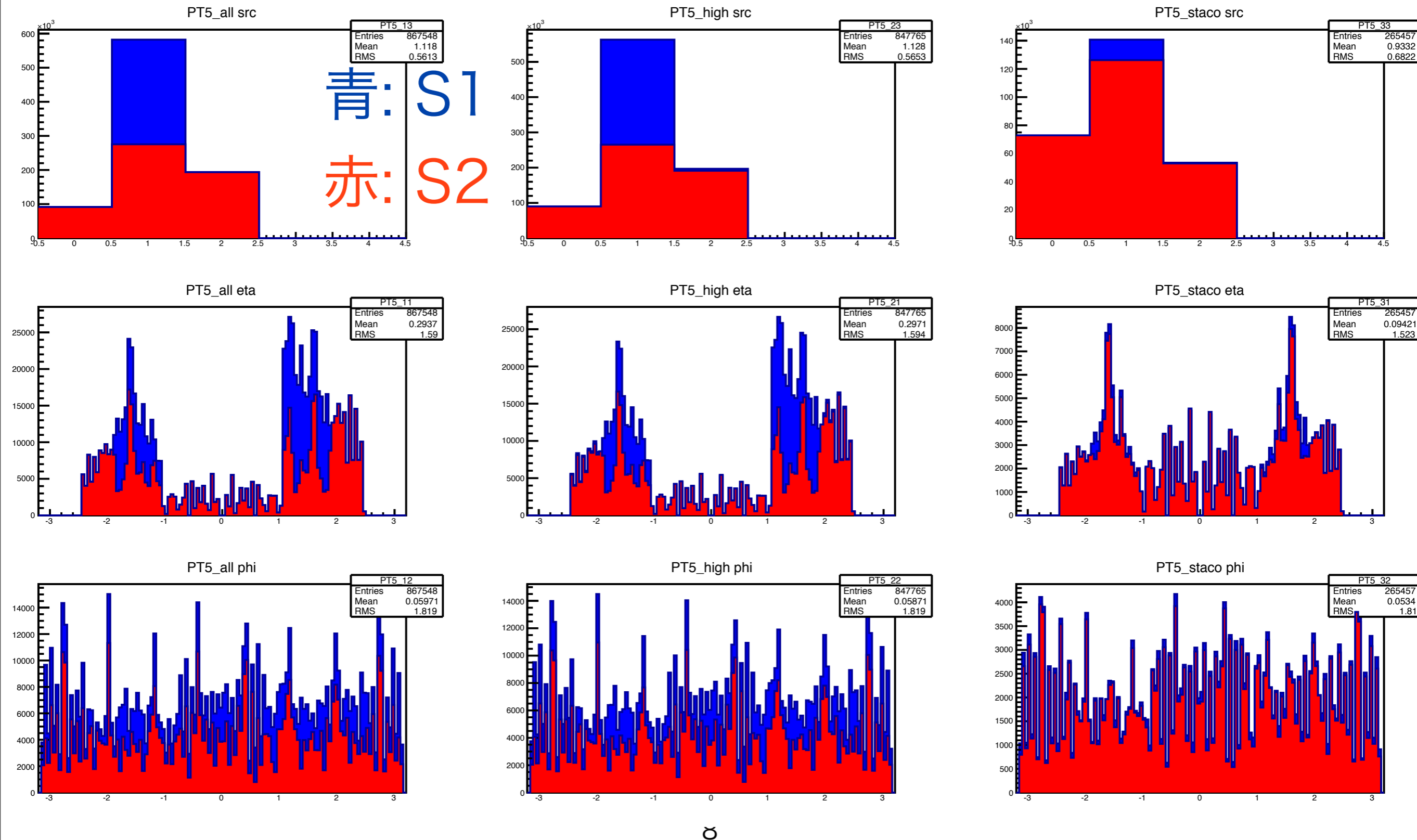
PT5

	all RoI		1 fill/event		w staco(dR<0.1)	
S1 (before EI/FI cut)	867548		847765		265457	
	91596 (RPC)	775952 (TGC)	88138(RPC)	759627(TGC)	71224(RPC)	194233 (TGC)
S2 (EI/FI cut)	560763		546751		252153	
	91596 (RPC)	469167 (TGC)	90179 (RPC)	456572 (TGC)	72915 (RPC)	179238 (TGC)

OK!!

OK!!

S1 と S2の重ね書き: PT5



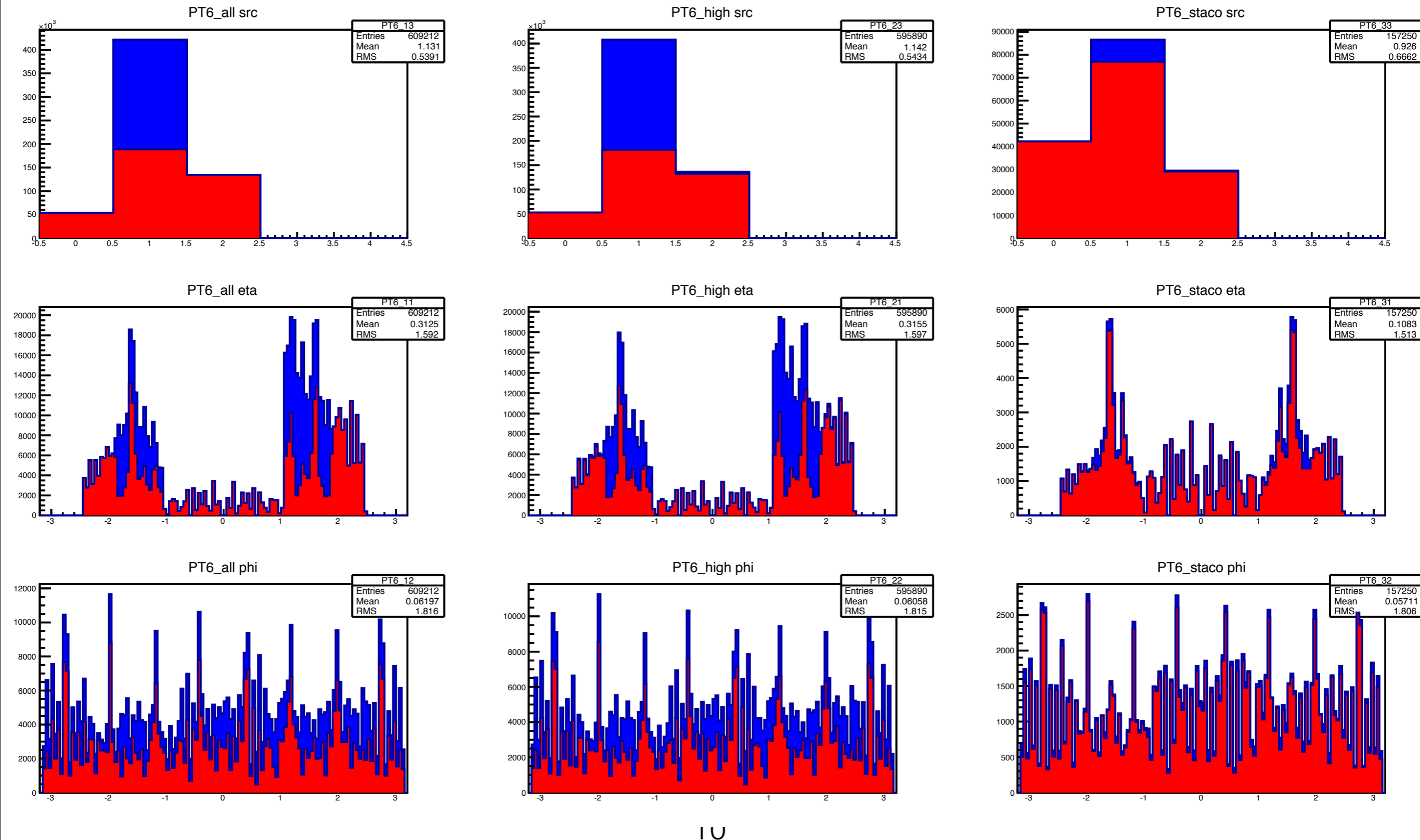
PT6

	all RoI		1 fill/event		w staco(dR<0.1)	
S1 (before EI/FI cut)	609212		595890		157250	
	53748 (RPC)	555464 (TGC)	51591 (RPC)	544299 (TGC)	41145 (RPC)	116105 (TGC)
S2 (EI/FI cut)	376096		366918		148302	
	53748 (RPC)	322348 (TGC)	52915 (RPC)	314003 (TGC)	42245 (RPC)	106057 (TGC)

OK!!

OK!!

S1 と S2の重ね書き: PT6



I U

TDR rate check: S3

- 現在デバッグ中。
- 数日中に報告します。

To Do

- TDRのrateチェック
- TILE muon のオペレーションモード
- SLの動作理解。コードをもらって理解。
- (京都のテストベンチの整備 (PT6の読み出しコード作成))
- (TILEにDead Moduleが出来たときの対処法)

CERNで
進行中

backup

step02 cutの理解

- sourceが1でないtriggerに関してはcut無し。
- sourceが1のtrigger(EndCap)
 - ◆ EI/FI cutを使うかどうかはデータから読み込む。
 - ◆ EI/FI cutを使う場合hitがあったSSCの (n, ϕ) とEI/FIの (n, ϕ) の差 $(dn, d\phi)$ を計算して、 $|dn| < 0.2$ と $|d\phi| < 0.2$ を同時に満たすときだけtriggerを出す。
 - ◆ ただしEI/FIの情報は8chのORでSLに送られている。そこで8chの中心値を使うことにする。